

AFC7 円卓会議

タイにおける日本研究の現状と展望

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会(SGRA)

2024年8月10日(土) 9:00~10:30

言語：日本語

会場：チュラーロンコーン大学 501-5&7 教室

主旨

本円卓会議では、タイ国内で発表された学術論文のデータベースを基に、タイにおける日本研究の傾向および現状を詳述する。特に「日本語、日本語教育、日本文学、日本文化」に関する研究の特徴に触れた上で、これらの研究を後押しする主要なタイの学術協会の役割及び活動についても紹介する。また、タイにおける日本研究の将来の展望について、関連専門家との議論の中から新たな可能性を探る。

プログラム

9:00 開会挨拶

9:05 報告1

タイにおける「日本語・日本語教育・日本文学」に関する研究の全体傾向

カノックワン・ラオハブラナキット・片桐

(チュラーロンコーン大学文学部教授)

本研究では、1994年から2022年までの期間にタイで刊行された「日本語・日本語教育・日本文学」に関する学術論文613本を詳細に分析し、タイにおける「日本語・日本語教育・日本文学」研究の傾向を体系的に分析した。

研究領域ごとの調査結果から、「日本語教育」の論文数が最も多く、続いて「日本文学」、「日本語」となっていることが確認された。使用される言語についての分析で

は、タイ語と日本語が主要言語である一方、英語論文の数は相対的に少ないことが示された。また、公開年度に基づく時系列分析により、2018年から2022年の間に研究数が顕著に増加していることが確認された。さらに、タイにおける他の主要外国語（英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語）の研究傾向との比較を行い、タイの「日本語、日本語教育、日本文学」の研究の特徴及び傾向を明らかにすることができた。

9：17 報告2

「日本語および日本語教育」研究の現状

ソムキアット・チャウエンキヅジワニット
(タマサート大学教養学部教授)

本研究は、1994年から2022年にかけてタイで刊行された「日本語および日本語教育」に関する学術論文528本を体系的に分析することで、その研究傾向を明らかにするものである。

分析の結果、最も多い「日本語教育」に関する研究では、教室の実践やカリキュラム設計が主要なテーマとして取り上げられ、アンケート調査が一般的な研究手法として用いられていたことが確認された。続く「日本語学」の研究は、時間の経過とともに研究理論とその確たる手法の採用が増加していることが示された。さらに、「日本語翻訳」に関する研究は、2018年以降の研究数の増加が目立ち、この分野への関心が高まっていることが伺えた。

本研究の結果を通じて、タイの日本語・日本語教育研究のキーワードや研究方法の特徴と傾向が詳細に明示された。

9：29 報告3

タイにおける日本文学研究の歩み—90年代から現在に至るまで—

ピヤヌット・ウィリヤエナワット
(タマサート大学教養学部准教授)

本研究では、1994年から2022年に至るまでの期間にタイで刊行された「日本文学」に関する学術論文（85本）、卒業論文（51本）（修士論文及び博士論文を含む）、図書（16冊）合計152件を分析することで、タイにおける日本文学研究の従来の歩み、並びに研究の傾向を紹介する。

分析の結果、日本文学についての研究では、「作品分析」が最も多く、続いて「比較文学」、「作品の翻訳」、「日本文学教育」という順になっていることが確認され

た。最初の5年間（1994-1998）は、日本文学に関する研究はまだ少なく、分析した内容を見ると、日本文学を通して日本のことを紹介するものであり、タイにおける日本文学教育の研究が殆どであった。その時点で日本文学作品自体の分析はまだ見当たらなかった。しかし、その後タイでは、日本文学の研究が圧倒的に論じられているようになったのは2014～2018年であった。数量のみならず、内容の面でも多岐にわたる時代の文学が論じられていたことが顕著である。今回の研究では、タイにおける日本文学研究の特徴及び傾向を明らかにすることができた。

9：41 報告4

タイにおける日本の社会と文化研究の現状と課題

—タイ国日本研究協会（JSAT）の視点から—

チョムナード・シテイサン

（タイ国日本研究協会会長・

チュラーロンコーン大学東洋言語学科長・准教授）

タイ国日本研究協会（JSAT）は2006年に日本研究ネットワーク（JSN）として設立されたアメリカ合衆国の学会に次いで世界で2番目に長く続いた海外の日本研究の非営利団体である。現在、約130人の会員が在籍しており、タイ国内で日本研究の研究者の育成や支援に重要な役割を果たしてきた。特に人文科学と社会科学の分野において、学術会議、学会誌、ホームページおよびソーシャルメディアを通して会員に研究成果を公開する場を提供し、また研究支援も行っている。

近年の学会発表や投稿論文の本数を見ると、日本の社会と文化の研究業績が日本語と日本文学のそれに比べてより少ない傾向がみられる。特に実地調査が必要な研究が極端に少ないことは注目に値する。今回のプレゼンテーションでは、この問題に焦点を当てJSATの視点から論じる。また今後のJSATの活動に関する課題や方向性についても議論したい。

9：53 報告5

日本語教育・教師会のネットワークとその活動

ソイスダー・ナラノーン

（タイ国日本語日本文化教師協会アドバイザー・

元カセサート大学人文学部准教授）

タイ国日本語日本文化教師協会（JTAT）は2009年1月29日に正式に協会として設立された。その前身は、2003年7月5日に設立されたタイ国日本語教師会である。協会になるまでの主な活動は、日本語教師を対象に、年に二回のセミナーを開催する一方、

学生を対象に、2006年にドラマコンテストを初めて開き人気のイベントとなった。運営委員会はボランティアの日本語教師（大学及び高校）によって構成されている。当初の会員は96名しかいなかった。

2023年に至るまでの20年間のうちに、同会のネットワークが広がると共に、言語だけでなく文化、また教育だけではなく研究の面も考慮され、様々な活動が工夫されてきた。教師対象の活動では、セミナー以外に国際交流基金や博報堂教育財団との連携で短期訪日研修プログラムを行っている。学生対象の活動では、短編映画コンテスト・ドラマコンテスト・ビブリオバトルなどが始まった。

以上のように、同会では『質的な教師』の育成を目指し、タイにおける日本語教育の発展に力を尽くすという役割を果たしてきた。

10:05 総合討論&質疑応答

司会者：香山 恆毅（チェンマイ大学人文学部講師）

討論者：メンバー全員およびその他の参加者

10:25 閉会挨拶

登壇者



司会進行

香山恆毅 KOYAMA Koki

タイ国チェンマイ大学人文学部日本語講師。1972年生まれ。タイ国チューラーロンコーン大学修士課程外国語としての日本語コース修了後、日本語学校、高校、大学にて日本語講師。

報告者1

カノックワン・ラオハブラナキット・片桐 Kanokwan Laohaburanakit KATAGIRI



チューラーロンコーン大学文学部日本語講座教授。筑波大学修士課程地域研究科日本語コース修了、筑波大学博士課程文芸・言語研究科応用言語学専攻修了。博士（言語学）。専門分野は、言語学、日本語学、日本語教育。関心領域は、日タイ語対照研究、タイ人学習者の日本語、日本語文法。主要著作に『外国語教育のための応用言語学』、『対照分析から見た日本語』、『らくらくタイ語聴き取り練習帳』（共著）、『ホップ・ステップ・ジャンプ I, II（日本語中級教科書）』など。

報告者 2

ソムキアット・チャウエンキジワニット Somkiat CHAWENGKIJWANICH



タマサート大学教養学部日本語講座教授。筑波大学修士課程地域研究科日本語コース修了、筑波大学博士課程文芸・言語研究科応用言語学専攻修了。博士（言語学）。専門分野は、言語学、日本語学、日本語教育、翻訳。関心領域は、日タイ語対照研究、日本語文法、翻訳。主要著作に『職業としての、日・タイ翻訳』、『日・タイ翻訳—理論と実践』、『日・タイ翻訳—基礎編—』、『しておくべき日本語学』（共著）など。

報告者 3

ピヤヌット・ウィリヤエナワット Piyanch WIRIYAENAWAT



タマサート大学教養学部日本語講座准教授。大阪大学修士課程日本文学研究科日本文学コース修了、大阪大学博士課程日本文学研究科日本文学コース修了。博士（文学）。専門分野は、日本近・現代文学。関心領域は、日本現代女性作家の作品論、作品におけるジェンダーの問題。主要著作に『日本文学における女性像—明治時代から現在に至るまで—』、『Japan: Fictions and Reality』（共著）、『Japanese Ways of Molding Quality People』（共著）など。

報告者 4

チョムナード・シテイサン Chomnard SETISARN



チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座准教授、東洋言語学科学科長、タイ国日本研究学協会会長。専門は日本民俗学、日本語・日本文化教育、日タイ翻訳。「日本文化入門」、「日本の民俗学」などの授業を担当。著書に、[単著]『日本の民俗学』（2018、チュラーロンコーン大学文学部学術出版）、[共著]『タイにおける和食の発展史』（2005、チュラーロンコーン大学文学部学術出版）、『タイの現代社会における創造的伝統』（2015、シリントン人類学センター出版）

報告者 5

ソイスダー・ナラノン Soysuda Na RANONG



元タイ国立カセサート大学東洋言語学科准教授。慶応義塾大学大学院文学研究科国文専攻修了。文学修士(1987)。東京外国語大学大学院地域文化研究科地域文化専攻修了。博士（学術）(1998)。専門分野は、日本語教育。関心領域は、作文の誤用分析、日本事情、翻訳。主要業績として、『日・タイ辞典』（共著）、Haruki Murakami's "A Slow Boat to China" Short Stories: Images of Life and Style of Writing, *Manutsayasat Wichakan*, 2022) (単著)、Four Decades of the Multifaceted Japanese Language and Culture (単著) など。